

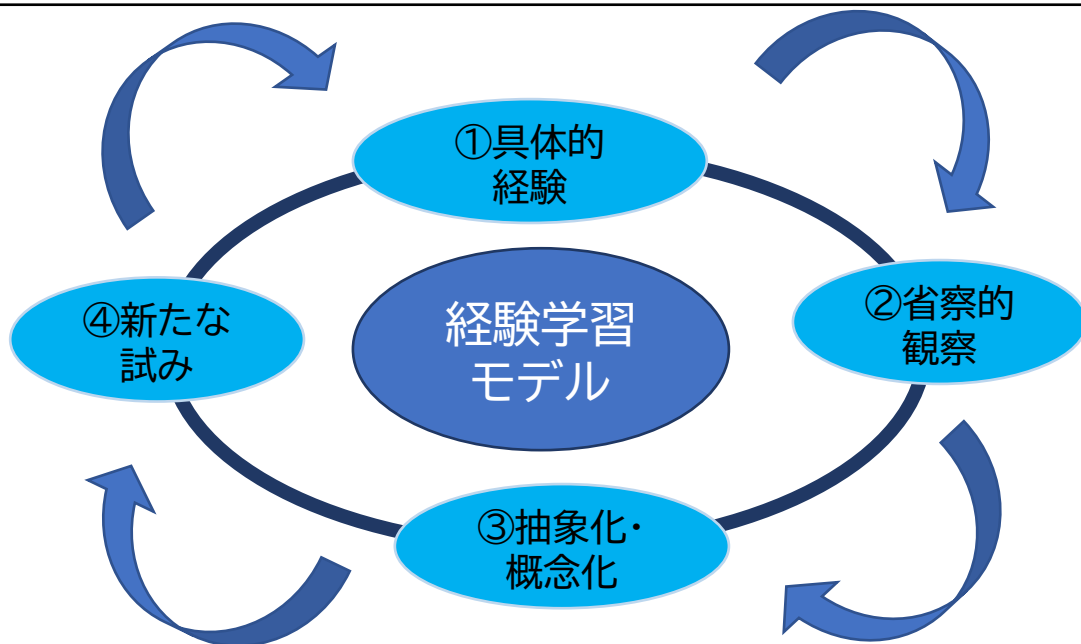
経験学習プロセス

RBAの実践力を高めていくためには、経験から学ぶプロセスを取り入れることが有効です。

具体的には、知識を得てそれを基に実践し、実行した経験から知識へと理論化し、再び実践する、という学習サイクルを続けることです。

重要なことは、経験を積み重ねていくだけでなく、経験を通して知識本質的な見方や思考法を身につけ、次の治験のRBAに活かせるようにすることです。

そのために次に示すような経験学習モデル(Kolb, 1984)を回していくことを、RBAを開始する前から計画しておくことが良いと考えます。



- ① 経験し、
- ② 経験したことを振り返り、内省し、
- ③ そこから得られた教訓を、抽象化し、概念化し、
- ④ 新たな状況に適用し、行動する。
そして、再び、前とは違う見方で経験を積む。

このような経験と内省のプロセスを、らせん状に回していくことで、経験をもとに自らの実践力を高めていく。

経験学習モデルのプロセスの詳細

① 具体的経験

事前に得た知識やこれまでの経験を基に、自ら考えて行動し実践します。経験学習のプロセスを念頭に「自ら」考え、プロセスの「なぜ」を考えて実践します。自分自身の考えやそのプロセスを明確にしておくこと次のステップの②省察的観察を効果的に行うことができます。

② 省察的観察

内省は特に重要です。つまり、振り返り※を行うことが実践力を高める有効な手立てのひとつになります。

③ 抽象化・概念化

①の経験から教訓を導き出します。つまり、得たことを、自分なりに知識やルールとして論理的にまとめることをいいます。今回の経験で得た学びを、ほかの状況でも応用できるように概念化することになります。

④ 新たな試み

③でまとめられた知識やルールを、その後の治験に活用できるように、記録を作成し共有するようにしておきます。また、各種計画書に反映できることが何か検討し、プロセスに活用していくことが重要です。

※振り返り

振り返りには、一般的にKPT法のフレームワークが用いられます。

このフレームワークを用いてRBA終了時に多職種で振り返りを行うことが良いと考えます。

RBAに限らず、プロジェクト全体の振り返りの中で行うことで良いでしょう。

Keep:良かったこと、 成果が出ていて 継続すること	Try:明確な次のアクション
Problem: 解決すべき課題	